

令和6年8月8日

亀山市議会議員長 森 美和子 様

研修報告書

会 派 名	新和会
報告議員名	櫻木善仁
参加議員名	岡本公秀、深水隆司、櫻木善仁（敬称略）
研 修 日	2024年8月3日（土）
研修内容等	（株）地方議会総合研究所 地方議会議員セミナー
	研修テーマ「決算審議特別セミナー」 10:00～13:00 決算は語る① 14:00～17:00 決算は語る②
	講師：市川克美(寝屋川市職員 指導役)元副市長 内容は、議会での企画政策、ブランド戦略室、産業振興室、市民生活部、健康部、経営企画部としての執行部答弁の経験と実態に基づく講義でした。
研修の概要	○決算は語る① 1. 役所からみた決算委員会 2. 議員がすべき決算の活かし方 3. 決算で聞くべきこと、聞いてはダメなこと 4. 貴方もしているかも？実例から学ぶダメな質議 ○決算は語る② 1. 役所に刺さる良い質疑の実例 2. 行政の急所にテキサスヒットする質疑 3. 令和5年度決算で必ず聞くべき事業 4. 決算審議と一般質問や議員活動への連動のススメ

【所感】岡本公秀

決算審議に当たっては、監査委員の監査より踏み込むべきであり、行政の効率性、必要性、公務員の無謬性についても問うべきである。また、地方財政制度を把握し、地方交付税の仕組みを押さえるべきである。

(1) 毎年確実に聞く事柄

事務事業の金額の変動や財源内訳の変化。
不用額、税収の増減、新規事業の実績。
公共施設学校の統廃合、職員給与、採用等。
補助金、交付金、負担金について。
治安対策、ふるさと納税、各種契約や収納率について。

(2) 全国的なトレンド政策について聞く

子育て支援、給食費無償化、コロナ関連、医療費助成、災害、外出支援、市街地再開発など。

(3) 行政が答弁に困る事項も聞く

経費を投入しても実績が上がらない事業、解釈の分かれる課題。
しかし、評価すべきは評価し、課題については指摘する。
他の公的機関との連携もチェックする。

(4) 答弁側から見て避けてほしい発言

一方的な批判、決めつけの論理。
重複質問、定量的に評価しづらい施策について。
決算審議を一般質問へと発展させる。

「市民のため」「まちのため」という大義の再確認。

【所感】 深水隆司

講師の市川氏は、市職員、副市長として理事者側に精通し、実際に体験した経験談からのリアリティに富んだ内容であった。決算は前年度と比較して増減があるもの、当初予算審議で特に質疑があったものなどを中心に取り上げるのが望ましいとのこと。

寝屋川市では質疑でも議員自らの意見を言っても良いとのことであった。議員の考えを明確にすることで質疑の内容がわかりやすく、理事者側に対しても気づきが生まれるとのこと。また、予算決算委員会では通告は無く、行政側も準備に相当な時間をかけ資料を作成しなければならない。詳細な質疑を求められても答弁ができるよう実務担当者である係長も委員会に同席するとのことであり、質疑する議員も周到な準備を行い、予算決算委員会に臨まなければいけない。

去年の決算書にはなく今年の決算書にあがってきているものは、事前はその内容について聞いておく方が良く、また、職員から内容について確認されても、一問一答方式で内容を説明するのではなく、大まかな内容を示す方が良い。

どこの自治体の財政計画も歳出に重きを置いているが、歳入についても質問すべきである。財政調整基金は、災害時等の緊急時に対応するための目的を持っており、財政調整基金頼みの予算編成はすべきではない。財政調整基金を取り崩す前に行財政改革を実施すべきである。事業を減らして職員を減らすべきである。

議会と行政は市民福祉の向上、地域発展のために互いに高め合う関係であり、決算審議は「市民のため」「まちのため」との大義を再確認する場にしなければならない。情報の集積と知識を強化し、それを基に多方面から研究し、文化的素養のある議員を目指したい。

【所感】 櫻木善仁

本研修を通して、事前準備（予習）の重要性を改めて実感した。

具体的には、前年度決算額と大きく変わっている事務事業の実績と過去の指摘事項を再チェックすること、決算総額の増減はなくとも内訳が変わっている事業やそれらに関連する事務事業まで事前確認することにより実態を把握した上で効率性や必要性、行政の無謬性を問う場であることが分かった。

今回の研修では、議員がすべき決算の活かし方、決算で必ず聞くべき事業などについて学ぶことができた。

具体的には以下の点が挙げられる。

- ・ 監査委員の監査よりも踏み込み、事務事業の効果や成果を問うこと。
- ・ 予算決算委員会での質問を次回の一般質問に繋げること。
- ・ 実績データだけではなく、取組を聞くこと。
- ・ 各種契約における随意契約の状況、理由を聞くこと。

この研修を通じて、決算で必ず聞くべき事業の予習を行い、データに基づく根拠を明確にすることの重要性を学んだ。今後、「市民のため」「亀山市のため」そして「職員のため」に、文化的素養のある議員を目指す。

【備考】

参加者情報：三島市、岐阜市、上越市、宮崎県、野木町、富士市、板橋区、杉並区、長野県、白山市2、亀山市3、富加町8、江戸川区、白岡市（24名参加）

